

2019年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名(英)	ヒューマンアート (Human Art)		
ナンバリングコード	A20403	大分類 / 難易度 科目分野	教養基礎科目 / 標準レベル 特色科目
単位数	2	配当学年 / 開講期	1 / 後期
必修・選択区分	選択		
授業コード	A030751	クラス名	
担当教員名	安田 幸夫、島岡 成治、山本 義史、杉浦 嘉雄、近藤 正一、星芝 貴行、西村 謙司、坂井 美穂、藪内 聰和、足立 元、坪倉 篤志、小島 康史		
履修上の注意、 履修条件	ありません ※講義はオムニバス形式で行われます。ゲストの方が担当する場合もあります。マナーを守って遅刻・欠席はしないように心がけてください。 ※授業開始前に携帯電話の電源を切ってカバンの中に入れておいてください。メールやインターネット等、IT機器類の使用は禁止します。使用している場合には即刻退室を命じます。なお、机の上や棚に置いている場合も、使用中とみなします。		
教科書	使用しません。		
参考文献及び指定図書	各講義で担当教員から提示されます。		
関連科目	人間力概論、コミュニケーション演習、大分学・大分楽		

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確認等)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	理由のない遅刻や欠席がなく、取り組む姿勢が適正である			30点
【知識・理解】	各講義の「主題」を正確に把握できる			20点
【技能・表現・コミュニケーション】	講義の内容に対する意見・感想が明確に記述できる レポートが丁寧に読みやすく書ける			25点
【思考・判断・創造】	授業内容に基づき、十分に思考を巡らせることができる 講義内容を文化・芸術とのかかわりまで展開できる			25点

○授業の目的・概要等

授業の目的	<p>生活空間に目をやり、そこにある美を愛しむゆとりをもつことは豊かな生活を創造することに通じます。そして、あらゆる美を愛しむための知識を獲得することは、豊かな人間性(人間力)を育むためにもきわめて重要です。この講義を通して、生活の中にあるさまざまな美に気づき、心ときめかせるようになって欲しいものです。</p>
授業の概要	<p>美しいものを美しいと感じ取るための手法を学び、美を愛でることのできるバランスのよい思考と感性の育成を目指します。さらに、日本また大分の文化に根ざした様々な芸術や諸外国の芸術作品に触れる機会を提供し、そこから大分の文化を理解してもらいます。</p> <p>授業ごとに小論文を作成してもらいますが、受講者数が多いため添削・返却はしません。これの評価は「○到達目標に対する到達度の目安、および、成績評価の目安」を参照して下さい。</p> <p>なお、講師の都合でシラバスに示した授業内容や実施日(順番)を変更することがあります。その際には前もって変更内容を伝えますので、他の授業と同様に、しっかりと受講準備をするように心掛けてください。</p>
授業の運営方法	(1)授業の形式 「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方 「オムニバス方式」
	(3)アクティブ・ラーニング
地域志向科目	カテゴリー III: 地域における課題解決に必要な知識を修得する科目
実務経験のある教員による授業科目	

○備考欄

【レポートの評価方法】

- 講義内容(もしくは指示事項)に関する意見・感想が丁寧な字で十分に記述されている:3点
- 講義内容(もしくは指示事項)に関する意見・感想が判読可能な文字でおおよそ記述されている:2点
- 講義内容(もしくは指示事項)に関する意見・感想がほとんど記述されていない:1点
- 提出はされているが、文字数が不足していたり、文字が読み取り難い場合:0点

【成績評価基準】

S評価:90点以上

A評価:80点以上90点未満

B評価:70点以上80点未満

C評価:60点以上70点未満

E評価:60点未満

【芸術鑑賞加点】

授業外で実施する「別指定」の芸術鑑賞はレポートの提出で加算点(15点満点)を与えます。レポートに鑑賞券の半券を張り付けて提出してください。ただし、鑑賞は3件までとします。詳細はガイドanceでお知らせしますが、概略を下に記しておきます。

【芸術鑑賞レポートの作成方法】

芸術鑑賞レポートの構成は表紙(講義名、美術館名、展覧会・イベント名、学籍番号、氏名を記す)、本文(興味を抱いた作品の題名、作品の選択理由、作品鑑賞した感想を記す)であり、ホチキスか糊で左上を綴じてください。綴じられていなかつたり、表紙がない場合には受け取りません。また、表紙の裏に鑑賞券の半券を糊かセロハンテープで貼り付けてください。ホッキスでの貼り付けはしないでください。表紙と本文はワープロで作成し、本文のフォントサイズは12ポイント、文字数は400字程度とします。

2019年度 授業シラバスの詳細内容

<p>○授業計画</p> <p>科 目 名 : ヒューマンアート (Human Art) 授業コード: A030751 担当教員 : 安田 幸夫、島岡 成治、山本 義史、杉浦 嘉雄、近藤 正一、星芝 貴行、西村 謙司、坂井 美穂、藪内 聰和、足立 元、坪倉 篤志、小島 康史</p> <p>学修内容</p> <p>1. ガイダンス《坂井美穂・安田幸夫》 シラバスにもとづいて講義の概要を解説します。 この講義における『アート』は、本来「アート」が持つ範囲を開放しています。それゆえ、個別の内容に違和感を持つ部分もあるかも知れません。そこで、第1回目の講義では、個々が持つ固定観念を拭い去ることから始めたいと思います。 第一回目から小論文を作成してもらいますので、筆記用具は必ず持参してください。</p> <p>予習: シラバスを熟読してください。また、アートと表される事柄にはどのようなものがあるかを調べてください。 (約2.0h) 復習: この講義名になっている「ヒューマンアート」とは何か、今現在の自分なりの考えをまとめてください。 (約2.0h)</p> <p>2. 「人間と芸術」《西村謙司》 「ヒューマンアート」という言葉の意味を考えることによって、この授業の目的と意義を確認します。また、芸術的な作品制作に取り組む建築家の活動内容を紹介します。そのなかで、建築というもののづくりのあり方の技術的側面と芸術的側面の二面に焦点をあて、技術と芸術の相異について解説します。人間との関わりを大切にする「ものづくり」に関わる際の基本的なあり方の指針を学ぶことをめざします。</p> <p>予習: 「ヒューマンアート」という言葉の意味について、種々のメディアを介して調査し、考えて下さい。 (約2.0h) 復習: 人間との関係を大切にして制作された芸術(絵画、彫刻、音楽、文芸、建築等)について調べてください。 (約2.0h)</p> <p>3. 「いろいろいろいろ」(色彩の基礎)《近藤正一》 色と光と知覚との関係、色の表現の仕方と色彩調和の方法について解説します。適切な色彩を正確に伝達するための基礎知識を学ぶことにより、表色系の意味を理解し、色彩調和に関する基礎的な知識を身につけます。</p> <p>予習: 色彩にかかわるエピソードを考えてきてください。 (約2.0h) 復習: 講義を踏まえて色彩調和についてアクティブラーニングをしてください。 (約2.0h)</p> <p>4. 「くらしといろ」(生活空間の色の役割)《近藤正一》 生活空間には、ファッショントレンド、商品、都市景観などあらゆる分野で色が利用されています。とりわけ環境色彩について着目し、正しい知識にもとづいて表現された生活空間がどのようなものであるかを解説します。</p> <p>予習: くらしのなかで色彩が役立てられている事例について考えてきてください。 (約2.0h) 復習: 講義を踏まえて環境色彩についてアクティブラーニングをしてください。 (約2.0h)</p> <p>5. 「色彩とデザイン -配色とティストから-」《足立 元》 デザインと色彩は密接な関係を持っており、デザイナーは色彩を計画的に用いてデザインの意図をより的確に表現しようとします。実践的な配色法から、イメージを伝達する際に色彩が果たす役割を学びます。</p> <p>予習: 参考文献「配色共感マップ(内田 広由紀 著)」や 色彩とデザインに関するWeb上の資料を事前に調査していく (約2.0h) 復習: 講義を踏まえて配色の観点から身の回りのデザインを観察し、色彩表現について考察してください。 (約2.0h)</p> <p>6. サウンドデザインと芸術《星芝貴行》 音の発生、音の伝播、音響感覚、音楽、騒音 等々、音に関するあらゆる現象から、音楽における音創りや映像との融合など芸術分野まで踏み込んで、興味の持てる範囲でお話をします。</p> <p>予習: 音の物理的性質と音の心理的效果について調べてください。 (約2.0h) 復習: 音と芸術の関係について考察してください。音は芸術足りえるのでしょうか。あなたなりの結論を導いてください (約2.0h)</p> <p>7. 特別講義《未定》 外部の講師による講演を予定していますが、日時と内容は未定となっています。決定し次第お知らせします。</p> <p>予習: 講師の情報をWeb検索し、どのような業績・仕事をされているか知らべてください。 (約2.0h) 復習: 講師からの指示を受けてください。 (約2.0h)</p> <p>8. 哲学における美しさ《藪内聰和》 世界には、多くの美しいものがあります。美しいものを美しいと認識する判断基準は、おおむね人間に共通であるといえます。それではなぜあるものを美しいといえるのでしょうか。そして、美しさを人間は共有できるのでしょうか。これについて、哲学者の学説を手がかりに考えてみましょう。</p> <p>予習: 自分にとって美しさとは何か考えてまとめておいてください。 (約2.0h) 復習: 哲学と芸術について指示された内容でレポートの作成を行ってください。 (約2.0h)</p>	<p>○授業計画</p> <p>科 目 名 : ヒューマンアート (Human Art) 授業コード: A030751 担当教員 : 安田 幸夫、島岡 成治、山本 義史、杉浦 嘉雄、近藤 正一、星芝 貴行、西村 謙司、坂井 美穂、藪内 聰和、足立 元、坪倉 篤志、小島 康史</p> <p>学修内容</p> <p>9. 「アートで心理学する」《山本義史》 アートや芸術活動は人間の創造や自己表現でもあります。また、被服や身体装飾は、単に自然から身を守るという身体保護・実用という役割だけでなく、自己表現や他者との相互作用の基礎過程における心理的なものもあります。それらを通して自己理解に迫れるかもしれません。芸術療法やパーソナリティ検査で用いられるバウムテストおよび被服行動尺度を実施し、自己分析をしてみます。</p> <p>予習: これまでのヒューマンアートの講義を振り返って、あるいは調べ学習によって「人間と芸術や美との関係」を整 (約2.0h) 復習: 授業中に実施したバウムテストを紹介したサイトやWEB検索などによってさらに詳しく自己分析してください。 (約2.0h)</p> <p>10. 「映像作品の芸術性」《小島 康史》 映像作品が生まれた一番大きな要因は、他の芸術と同様に作家の眼差しによるところが大きいです。映像作家はどういうテーマを持ち、思考を巡らすのか。作り手と観客の間にあるものを演出という観点から、作品のシーンを題材に考察します。</p> <p>予習: 映像作品の芸術性について事前に調査をして、発見したことをまとめてください。 (約2.0h) 復習: 講義を踏まえて映像作品における作家性とテーマについて考察をしてください。 (約2.0h)</p> <p>11. “自然からのメッセージ”を大切にする美しい心 ~宮沢賢治の自然観を題材にして~《杉浦嘉雄》 童話作家として有名な宮沢賢治は、優れた理性の持ち主であると同時に優れた感性の持ち主でもありました。残された作品からも分かるように、賢治は理性と感性を介して周囲の自然や環境から、“自然からのメッセージ”を受け取り、それを文書に転写して「芸術」まで高めたのです。作品・個人史・自然観を通して、宮沢賢治の「美しい心の世界」を探求していきます。</p> <p>予習: 『注文の多い料理店』(1924年)「銀河鉄道の夜」(未定稿)『風の又三郎』(1934年)を読んでください。 (約2.0h) 復習: 「よだかの星」を読んで、何を思いましたか。宇宙観、自然観、人生観、家族への思いなどについて考えてみて (約2.0h)</p> <p>12. 「竹工芸における生活と美」《島岡成治》 自然の素材である竹を使って、生活のための道具をつくる、人間の技(human art)としての竹工芸とその美について考えます。大分県は、別府を中心として竹工芸のメッカの一つであり、かつて生野祥雲斎という人間国宝を生み出した場所であることにもふれます。</p> <p>予習: 大分県の竹工芸と竹産業と現代の問題について種々のメディアを介して調査して下さい。 (約2.0h) 復習: 調べたことと講義内容から竹のもつ美しさとその利用方法について、自分の考えをまとめてください。 (約2.0h)</p> <p>13. 「健康美を保つための食生活」《坂井美穂》 『食べる』ということは、生きていく上での基本的習慣であり、私たちの体は『食べたもの』によってつくられています。「食べることの意義」「健康とは何か」について紹介し、健康的に生活するうえで、希薄になりがちな『食』を見直し、『健康美』とは何かについて皆さん自身が見つめ直し、考え、学ぶことをめざします。</p> <p>予習: 20代における「食生活の重要性」について調査し、皆さん自身の食生活と比較し、事前課題ワークを行ってください (約2.0h) 復習: 予習と講義を踏まえて「健康美を保つ」という観点から皆さん自身の「食生活」について考察し、レポートにまと (約2.0h)</p> <p>14. 「ヒューマンコンピュータインターフェースとアート」《坪倉篤志》 機械と人間との対話は、どの時代においても、非常に重要な要素です。近年の情報端末や技術の進化に伴い、非常に身近なものになりました。本講義では、機械と人間との対話の過去と現在と未来について、解説します。その中で、この分野で活躍する人物や、近未来的な技術について紹介します。</p> <p>予習: 各自分で先進的と思える技術について調査してください。 (約2.0h) 復習: 講義で解説した事柄を元に、各自分で今後の進化についてまとめてください。 (約2.0h)</p> <p>15. 「振り返り」と「小論文」 講義の振り返りを行うために、全体を通じての小論文を作成してもらいます。 なお、正式な期末試験は実施しません。</p> <p>予習: 授業中に配布した資料を読み直して、「気づき」や「学び」を思い起こしておいてください。 (約2.0h) 復習: これまでの授業全体を通じて、「人間と芸術」について再度考えてみてください (約2.0h)</p> <p>16. 予備日</p> <p>予習: 復習:</p>
--	---